

台湾現地レポート①:

国防投資の強化と国家全体の発展

執筆: 岩本 由起子(国防安全研究院) 報告日: 2026年1月22日

シンポジウムのテーマ: 国防は「発展のエンジン」

2026年1月22日、台北にて国防安全研究院(INDSR)主催のシンポジウム「強化国防投資與国家整體發展(国防投資の強化と国家全体の発展)」が開催されました。今回の大きなテーマは、国防を単なる財政的なコストと捉えるのではなく、国家を成長させる「発展のエンジン(Engine of Development)」として再定義することにありました。

基調講演: AIT レイモンド・グリーン所長による「共同投資」の訴え

冒頭、AIT(米国在台協会)のレイモンド・グリーン所長(大使に相当)は、トランプ政権のもとでアメリカが「実務的かつ冷静な路線」を進んでいることを強調しました。「自由はタダではない(Freedom is not free)」という言葉を使い、台湾自身の自助努力と、米台が協力して安全を確保する「共同投資」の重要性を訴えました。

パネルディスカッション: 専門家が語る4つの視点

続くセッションでは、各分野の専門家から、国防がどのように国家の発展に寄与するかが具体的に語られました。

まず、中華経済研究院の劉孟俊氏は、アダム・スミスの理論を引用し、国防は経済の成果を守るために「器(Vessel)」であると述べました。次に、国防安全研究院の黃希儒氏は、軍事技術の研究開発が民間の技術革新を後押しする「波及効果(Spillover Effect)」について、データを用いて説明しました。

金融の視点からは、台湾金融研訓院の黃崇哲院長(FPAT名誉理事長)が、国防への支出を「資産管理」と捉え、国家の富を増やす仕組みを提案しました。最後に、国立政治大学の王信實教授は、国防の現場で育った技術人材が民間セクターへ流れることで、台湾全体の技術レベルを上げる「人材の善循環」の重要性を強調しました。

おわりに

会場には日本の NHK も取材に訪れており、台湾の防衛努力が地域の安定や日本の安全保障にも深く関わっていることが示されました。国防を「発展のエンジン」と捉える今回の議論は、今後の台湾の国家戦略を考える上で非常に重要なものになると感じました。まずは第一弾として、このコンセプトの枠組みをご報告いたします。

